

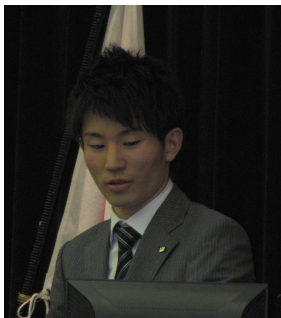
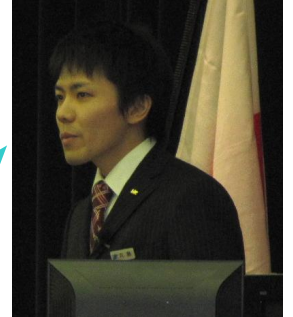
# 第22期生 人物研究発表会のご報告

平成 24 年 10 月 14 日（日） 廣池千九郎記念講堂にて、第 22 期生人物研究発表会を行いました。4 月に入塾した塾生 4 名が、日本の今日を築いた人物の中から各々が関心のある人物を選び、文献調査やゆかりの地を訪問し、研究したことを発表しました。参加者からは、多くの質問や感想をいただき、充実した会となりました。ご報告と共に感謝申し上げます。

## 副島種臣 - 己を信じ突き進んだ不屈の信念

## 丸島英朗

私は副島種臣について発表しました。彼は外交官として活躍し、他の列強国に屈することなく、「志気」を貫き通しました。その行動は利己的ではなく、根源には天皇の存在がありました。そのために、彼は屈することなく突き進み、様々な功績をあげることが出来たのでしょうか。私は彼の「志気」という考え方に触れ、自分のためではなく、何かのために生きることの大切さを学びました。



## 山岡鉄舟 - 至誠、無私の志士 -

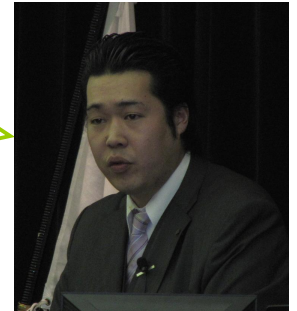
## 奥村祐司

今回の発表では、鉄舟の精神に焦点を当てました。江戸の無血開城に尽力した「無私」の姿、明治天皇の侍従として「至誠」をもって勤めた姿は、常に「公」という高い志も持った「志士」でした。これらは「剣・禅・書」による修練によって形成されたものであることを発表しました。研究を通して、陰で国を支えた偉人が居たことを後世へ伝える義務があると同時に、人は何に対しても「至誠」でなくてはならないと感じました。

## 渋沢栄一 - 真に社会を利する -

## 小松利彰

私は今回、日本の経済発展に大きな貢献をした「実業界の父」渋沢栄一を研究しました。尊王攘夷の志士から一橋家への仕官、フランス随員、大蔵官僚、実業家に転進と彼は波乱の人生を歩んできました。そんな中でも常に社会や国家を利することを考えて行動していたのが渋沢の大きな特徴です。今回の研究を通じて本来の経世済民を根本とした経済活動の大切さを学びました。



## 栗林忠道 - 国に忠義を尽くし人を慈しんだ陸軍中将 -

## 富澤晴加

私が研究対象として選んだ人物は、大東亜戦争中に硫黄島に着任した陸軍中将・栗林忠道です。54年の生涯を通して彼の人格がどう培われてきたのかを研究してまいりました。自分の家族と、部下たちとの関係を見ていくと、人に寄り添い慈しむ気持ちと、祖国を大事に思う気持ちをどんなときでも大切にしてきたことが分かりました。国を守ることは家族を守ること、そして自分の本分を尽くし、生を全うすることの大切さを忠道から学ぶことができました。

## 来場者からの感想から



- ・ 今回も沢山の事を教えていただきました。特に、志や公・誠といったものが中心にあったように思います。自分の事ばかり考える事が多い私ですが、他を利する、社会を利する、そういう大切なことを改めて思い出させてもらいました。
- ・ 何か心にこめて取り組む姿勢、尊敬する人物に感情移入させる姿に、自分もそうありたいと思いました。また学ばせていただきたいと思います。